



芳賀町 議会だより

No.135

平成23年2月7日発行



12月議会定例会

12月定例会の概要(条例制定・認定・補正予算 ほか)……	2～3
常任委員会事務調査報告 ……………	3
臨時議会・行政視察来庁 ……………	4
一般質問 ……………	5～11
議会定例会映像配信を試行・行政視察訪問 ……………	12
聲くこえ>私のいいたいこと ……………	13
議会日誌・芳賀町議員会懇談会・編集室 ……………	14

ふじやま
〈稲毛田 富士山自然公園〉

平成22年度芳賀町観光写真コンテスト入賞作品

□編集／芳賀町議会広報常任委員会

□発行／芳賀町議会
〒321-3392 栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020
電話 028(677)6023 FAX 028(677)6057
<http://www.town.haga.tochigi.jp/gikai/index.html>

12月定例会の概要

一般会計補正予算など7議案を可決

平成22年第10回議会定例会は、12月2日から7日までの6日間の会期で開かれました。

初日には提案理由の説明を行い、総務・産業建設常任委員会の事務調査報告が行われました。一般質問は5日目に7名の議員が登壇し、執行部の方針などをいただきました。

執行部から提案された8議案は、最終日に質疑、討論、採決が行われ、定例会を閉会しました。



＜町道としての路線が廃止された町道7号線＞
※芳賀工業団地 ホンダエンジニアリング西側

＜条例制定＞

□芳賀町光の道ネットワーク施設の設置及び管理に関する条例の制定

内容 この事業は、地域の情報化と防災・福祉・観光などの情報を提供し、地上デジタルテレビ放送難視聴の解消と高速インターネット利用環境の整備を目的としています。これらの施設の指定管理者による管理と運営について定めるものです。



＜町道廃止・認定＞

□芳賀町道路線の廃止について

□芳賀町道路線の認定について

内容 芳賀工業団地内で重複、分断しているなどの6路線を廃止し、10路線に分割した上で再認定するものです。

(質疑、討論なし・原案可決)

＜訴えの提起＞

□訴えの提起について

(介護老人保健施設の介護報酬に係る不当利得の返還)

内容 町外の介護老人保健施設において、人員基準違反による介護報酬の過払い返還請求額の返還がないため、不当利得金の返還と延滞金の支払いの訴えを提起するものです。

(質疑、討論なし・原案可決)

＜区域変更＞

□字の区域の変更について

内容 地方自治法の規定により、県営圃場整備事業芳賀町北部地区において、換地処分を行うにあたり、字の区域を変更するものです。

(質疑、討論なし・原案可決)

＜補正予算＞

□平成22年度芳賀町一般会計

内容 総額に、5,917万4千円を追加し、予算総額を76億2,182万9千円とするものです。主な歳出は、栃木県議会議員選挙費や、後期高齢者医療特別会計繰出し金、障害者自立支援費扶助費、管外保育費負担金、インフルエンザ予防接種委託料、合併処理浄化槽設置事業費補助などです。

質疑 小林信二議員 フィルムコミッションでの撮影件数と経済効果は。

企画課長 22年度途中の実績ですが、撮影29回、ロケハンが9回です。経済効果は撮影用弁当電気工事、消耗品などで270万円と試算しています。

質疑 石川 保議員 企画費時間外手当について、増加の傾向にあるが、いかなるものかと考えます。その内容は。

企画課長 フィルムコミッションや国勢調査、当初予算編成、光の道事業、GIS(地理情報システム事業)、CMS(ホームページ更新事業)などにかかるものです。

質疑 増淵さつき議員 育児支

援費、子ども健全育成事業費の使途は。また、地域公民館合併浄化槽設置事業費補助の計上があるが、未設置の件数は。

子ども育成課長 学童保育や子育て支援センターに対する消耗品で、図書費、衛生費、教材費などです。また、備品として感染力予防対策としての空気清浄器を各施設に設置します。

生涯学習課長 合併浄化槽未設置の地域公民館数は把握していませんが、今回の補正額は、申請のあった公民館に対する補助金です。

質疑 杉田貞一郎議員 海洋センター修繕費の内容は。また、指定管理者制度に移行するための駆け込み修繕ではないのか。
生涯学習課長 内容は、防火扉防湿シート張替え、循環ポンプ整備、着水プールの壁の補修、プールサイドの防湿シートの張替えなどで、現在必要とする修繕です。

質疑 小林一男議員 喫煙所の表示の設置について、どのようなものを何ヶ所設置するのか。
総務課長 喫煙所の表示が5ヶ所、分煙室の表示が16ヶ所、計21ヶ所の表示を町有施設に設置します。

(討論なし・原案可決)

□平成22年度芳賀町介護保険特別会計補正予算

内容 総額に、125万4千円を追加し、総額を11億2,565万8千円とするものです。

歳出は、裁判提訴の費用及び介護予防福祉用具購入費、介護予防住宅改修費です。

(質疑、討論なし・原案可決)

□平成22年度芳賀町後期高齢者医療特別会計補正予算

内容 総額から2,057万4千円を減額し、総額を1億1,212万6千円とするものです。

この減額は、保険料の見直しが行われたことと、広域連合に納付する保険基盤安定負担金が確定したことによるものです。

(質疑、討論なし・原案可決)



常任委員会事務調査報告

テーマ：耕作放棄地の解消について

＜産業建設常任委員会＞大根田哲夫委員長

現在の町耕作放棄地面積は約20haであるが、今後増加の傾向が予想されます。耕作放棄地は、認定農業者などの規模拡大と農業所得の安定を考えると、中核農業者に集積すべきと考えます。地区担当農業委員、関係団体等との連携により耕作放棄地解消の支援を有効に活用し、事業の推進を願いたい。また、圃場条件によっては農業生産法人等との連携も有効であり、長期的視点に立った経営計画の指導の下、農村環境の保全のためにも、農業生産への参入を推進されたい。

なお、優良農地は荒廃してしまった場合、復元に多額の費用を要することに鑑み、事前の対応が重要であると考えます。農地法第30条第1項にかかる調査や農家の意向調査等に併せ、関係機関と継続的に耕作放棄地の発生に関する事前情報を調査し、優良な農用地を保つ取り組みをされたい。



現地視察：福島県下郷町

テーマ：クローズド型最終処分場について

＜総務常任委員会＞小林隆志委員長

現代社会では、二酸化炭素など温室効果ガスの排出量増加による地球温暖化に始まり、家庭や事業者から出る排水等による水質汚濁、大気汚染や騒音、悪臭、廃棄物の不法投棄など、環境問題は多岐にわたっています。芳賀地区では、国や栃木県の計画を基に、ダイオキシン類の排出削減や施設の効果的な運用などを目的に基本計画を策定しました。当町に建設予定の一般廃棄物最終処分場については、研修先と同じく、屋根や壁による被覆設備によるクローズド型システム最終処分場であり、浸出水は散水して循環利用し、施設外へは放流しない無放流方式として、河川への放流は行わないものであり、水質汚染防止にも考慮するなど、環境にやさしい施設であることを確認いたしました。両施設とも町民生活を維持していく上で、なくてはならない施設である。よって、このことを町民誰もが理解するための合意形成が必要不可欠である。



現地視察：佐野市
みかもクリーンセンター

臨時議会

平成22年第9回議会臨時会

(11月18日招集)

□ 専決処分の報告について

(損害賠償の額の決定及び和解)

□ 内容 町外における、公用車事故での物損損害賠償額を、1万500円と決定し、保険対応したものです。

(質疑なし)

□ 芳賀町長の給与及び旅費に関する条例の一部改正について

□ 芳賀町職員の給与に関する条例の一部改正について

□ 内容 人事院勧告に伴い、町三役の期末手当を0.15月、職員については0.2月を引き下げ、職員給与の俸給月額を平均0.1%減額決定するものです。

(質疑、討論なし・原案可決)

□ 議会の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について

□ 内容 議員自らの発議案件で、期末手当0.15月を減額改定するものです。

(質疑、討論なし・原案可決)

□ 芳賀町立保育所設置に関する条例の一部改正について

□ 内容 町立保育園の民営化計画に基づき、水橋・南高保育園を廃止する条例改正です。



質疑 杉田貞一郎議員

見目 匡議員

石川 保議員

小林 一男議員

反対討論 杉田貞一郎議員

(賛成多数・原案可決)

□ 平成22年度芳賀町一般会計補正予算

正予算

□ 内容 総額から1,669万2千円を減額し、総額を75億6,265万5千円とするもので、人事院勧告などにより、期末手当や給与などの人件費を減額補正するものです。

(質疑、討論なし・原案可決)

□ 芳賀町B&G海洋センターの設置及び管理に関する条例の一部改正について

□ 内容 町が行っている海洋センターの管理運営を、指定管理者に移行するための、条例の一部改正です。

(質疑、討論なし・原案可決)

□ 指定管理者の指定について

(芳賀町B&G海洋センター)

□ 内容 株式会社日本水泳振興会 栃木営業所を指定管理者に指定するものです。

(質疑、討論なし・原案可決)



B&G海洋センター

行政視察来庁



市や町村の議会では、常任委員会や会派による行政視察を行い、調査結果を地元行政に反映させる取り組みを行っています。芳賀町にも毎年全国から先進事例を調査に訪れます。今回は11月に来庁された2市町を紹介いたします。

福島県西会津町議会 <総務常任委員会>

期 日 平成22年11月1日(月)

内 容 ・高齢福祉政策について
・認知症対策について
・デマンド交通事業について



役場3階にて

北海道江別市議会 <会派(新世クラブ)>

期 日 平成22年11月9日(火)

内 容 廃校舎の活用について
現地視察 シルバー人材センター
第2けやき作業所



シルバー人材センター(稲毛田)

高額な介護給付費と介護サービスのバランスは！

町 介護予防事業に重点を

石川 保 議員



問

芳賀町は、平成23年度、29床の特別養護老人ホーム建設計画がありますが、施設の将来に向けた位置づけを伺います。



施設建設予定の「唐桶溜」周辺

振興計画で見直し策定を

答

町長 施設の将来のあり方ですが、第5次芳賀町振興計画に基づき、後期高齢者総合福祉計画の基本方針として健康づくり生活支援、元気な高齢者の多様化、自立した生活が送れる生活支援、高齢者が安心して住みなれた地域でいつまでも健やかに住み続けられるまちづくりを目指します。総合的な介護対策ですが、介護保険の適正な運営と健全な財政運営の観点から介護給付だけでなく、介護予防事業に重点を置くこととし

ます。第5次振興計画で介護保険事業を見直し、策定していき

問

小地域における支え合いの意識の低下、日本人が本来持っている家庭や地域が助けて介護すると言う機能の低下、介護給付費が年々増加をたどっていくことが明らかであり、介護保険を将来にわたって持続可能な制度にするためにも、バランスのとれた介護サービスと

生きがいサロンなど、生き生きとした健康づくりへの支援策の強化が必要なのではないでしょうか。各地域の生きがいサロンの実施状況とその地域の介護給付費の関係を調べているか伺います。

答

町長 出せるものであれば、そういう分析も必要と考えます。

問

総合的に介護における対応として、在宅介護、訪問介護、グループホーム、デイサービス等との関わり方や、介護給付費が年々増加していく中で、懸命に健康管理など日々努力されている方や、在宅介護に

努力されている方々との介護サービスのバランスをどう位置づけているのか。

答

町長 在宅介護で見ていく方は負担も多く、入所待ちが多い。また、入所の費用も多額です。町では月1万円の助成を行っていますが、いつまでも健康でいていただく施策を多くとっていきます。

公約の達成率

問

町長公約の達成率と、実現のための考えを伺います。デマンド交通（ひばりタクシー）の日曜日の営業方針は？日曜日は町民会館、道の駅、ロマンの湯、商店などのイベントが集中しています。楽しみにしている交通弱者に対してのサービスを、実施すべきでは。

問

光の道整備事業（ケーブルテレビ）は、まだ加入率が低い状況ですが、大多数の方が加入しないと、行政サービスも生かされません。今後の方針を伺います。

答

町長 加入料が無料となる町民税の均等割りのみ課税世帯、生活保護世帯の推進をまだ行っていないこともあり、最終的には今年度中に50%程度の加入率になるのではないかと予想しています。現在光回線によるインターネット契約をされている方で、解約の制約がある方や、事業内容を良く理解していない方もたくさんいるようですので、これからしっかりと説明を行う中で加入率を上げていきたいと考えます。

自己評価で90%達成

答

町長 自己評価では90%の達成です。未達成部分であるデマンド交通エリア拡大については引き続き努力していきます。日曜日の運行については、どんな人が困っているのかを調査したい。



ひばりタクシーの課題：エリア拡大

町長の政治姿勢について問う



岩村 治雄 議員

町 選挙公約は90%達成

90%の公約を達成

問 安心と信頼のある町を指して、町民の期待のもとに19年5月、町長は就任されました。これまでの実績と、今後の課題について伺います。

答 町長 選挙公約などの実績は、自己評価ですが、90%と思っています。

問 皆が住みたくなるようなまちづくりとは？

答 町長 町民満足度調査で、「町に住みやすいと思う」と答えた人が83.1%、「住み続けたい」が83.5%で、総合的な満足度は高いと思っています。

期待度の高い項目は、「保険や年金の情報が伝わっている」「税金が町民のために完全に使われている」「雇用の情報」「高齢者の福祉サービス」「障害者のためのサービス」「道路の整備」「教育の充実」などです。

町民の皆さんのご期待に沿う町政を行うことが、満足度を上げ、住みたくなるようなまちづくりと考えます。

問 町政の課題は？

答 町長 納めた税の見返りとして、サービスの提供が求められています。納めていただいた税が、適正に使われていると認識していただき、また、

納得していただくことが大切です。また、身の丈に合った財政運営にメリハリをつけることも必要と考えます。町民協働によるまちづくりを行うためには、

町民の皆さんが町政に関心を持っていただくことが大事で、今後「光の道整備事業」などにより、積極的に情報を提供していきたいと考えています。

次期町長選への立候補は

問 次期町長選への立候補について伺います。

2期目に挑戦を決意

答 町長 まちづくりは、芳賀町のあるべき10年、20年、

30年後の長期的視野に立ち、持続性を持って進めていかなければなりません。私はこれまで町民目線を大切に、多くの意見を伺いながら率直に行ってきました。



皆さんの意見を伺う対話室(1F町長室)

ネットワーク構築を推進

答 町長 高齢者世帯が増加しており、地域の情報を地域の団体や関係者で共有する仕組みを高齢者見回りネットワークとして構築されていることが求められています。構築については、さまざまな形があり、地域の自治を踏まえて設定されることが大切です。モデル地区として、稲毛田自治会では、見回り隊を発足させていますが、今後もネットワーク構築を推進して行きたい。

独居老人対策は？

この4年間、開かれた町政で対話と協調によるまちづくりをキーワードに、町民の協力を得て職員とともに汗を流してきました。行政と町民、企業との協働の実現と、まちづくりのための土壌が、着実に進められたと自負しています。町民の立場に立つて、町政を執行すべきとの思いを強くし、2期目に挑戦する決意を固めました。

問 高齢化社会が進む中で、ひとり暮らしの高齢者を見守り、安心して生活できるように見守りネットワークの構築が必要ですか。その取り組みは？



議員定数についての考えは？



町 議会内で十分な話し合いを

大根田哲夫 議員

問

議員定数が改正されて、1期（4年）も経過していないのにこの問題が表面化しています。この件について、町長の考えを伺います。



議会内で十分な話し合いを

答

町長 議員定数は、地方自治法により上限が規定されています。芳賀町は、平成19年5月から16名になっています。議員定数の削減については、町長との対話の日や、各地区座談会、町民満足度調査などで話題として出ています。また、地方分権の推進によって地方自治体の自主自立がいつそう求められています。地方自治法上は、町長が議員定数を定める条例の一部改正について提案することもできますが、議員さん方の中にも削減について考えている方がいるようですので、「定数検討委員会」などを組織して、議会内で十分に話し合うことを希望します。

問

定数問題は、非常に重要なことですから、町も町民の意向を反映させるため、十分検討する必要があると思います。アンケートなどによって民意を十分に把握するなどの意向は。

答

町長 議員さんにおかれまして、十分に話し合っていたら、その中で各組織の代表者の皆さんなどの意見を聞く方法がとれば良いのではないかと思います。

強い農家の育成について

問

先の見えない農業でも生産者は各部会ごとに、大変な努力をしています。町は農業政策に理解があると認識していますが、今後の方針、施策について伺います。

答

町長 平成22年度の4つの最重点事業の1つとして農業振興をあげ、担い手を支援する事業、環境に優しい農業の支援、優良農地集積への支援と、今までの継続事業に加え、新規事業の推進により担い手農家を中心に利益の上がる強い農家の

土地利用型、集約農業で

育成を目指して支援してきました。

新規事業の目玉である施設園芸ハウスの1/3補助も、現在までに109アールの申請がありまして。ご指摘の強い農業ですが、第1に農地の集積、集落営農を含めた土地利用型農業。第2には苺やトマトなどの施設園芸、町特産の梨栽培などによる集約栽培が考えられますが、これらの農業は、専門的に特化していくことも必要と考えます。

強い農業を目指すには、後継者の育成と新しい栽培技術の確立に加え、第6次産業を視野に入れた販売戦略などの創意工夫が必要と考えます。また、農業者の高齢化に伴う離農や、耕作放棄地も出ていることから、農地の集約や、他産業からの農業参入の力も必要となってくると考えています。

町としては、今後とも時代に即した支援を継続していくことが必要です。



平成22年度ハウス設置整備事業(町単独)により設置されたパイプハウス(トマト栽培 上延生地内)

職員の接遇向上にどう対応？



杉田貞一郎 議員

町 住民から信頼され、喜んでいただけるように

問 行政経営方針の中で、職員一人ひとりの企画力、遂行力の向上を図るとしているが、どのように変わったのか。

行政評価システムで向上を

答 町長 行政評価システムの導入により、事務事業マネジメントシートで整理し、

現状、課題、要望、対応策、目的値設定作業などから、自分の事務事業を把握することができず。これらのプロセスをくり返し行うことで、職員の企画力、遂行力が向上すると考えます。

研修や指導により、多くの職員が住民の皆様から信頼され、喜んでいただけるよう努力します。

問 対応が悪いとか、来庁者に気づかないのは、町長をはじめ、執行部に緊張感が足りないからと思うが。

答 町長 副町長、教育長とも連携を取り、すばらしい

役場、町をつくろう。そういう思いで努力しておりますが、そういうことがありましたら、ぜひご指摘を願います。

問 窓口の対応が遅い、親切に欠ける、あいさつができないなど、職員の接遇に対しての意見を耳にするが、どのように感じ、どのように対応しているか。

答 町長 接客対応の心構えとして、分かりやすいこと

ばと笑顔ですばやく対応するよう指示しています。お客様が来たことに気づかないことや、専門的な説明で不愉快な思いをさせてしまうことがあり、大変申し訳なく思っています。

問 庁舎内に「あいさつ強化月間」などの表示を目にするが、職員はあいさつもできないのか。行政は、地域最高のサービス産業であると思うが、あいさつは基本中の基本と思うが、どのように考えるのか。

答 町長 役場全体があいさつをしないわけではありませ

ん。窓口では丁寧な対応をしています。表示してあるあいさつ強化月間の目的は、来庁者に職員の行動を明記し、今以上にあいさつすることへの意識を向



役場窓口：親切・ていねいがモットーです

上させ、役場内を活気に満ちた空間にして行こうと言う趣旨で始めました。

政策の達成度について

問 町長自身として、4年間の達成度はどのくらいか。

ほぼ満足の達成度です

答 町長 自己評価は、90%と

未達成の施策は「ひばりタクシー」「芳賀ハイパス」「土地利用の見直し」などです。

問 自己評価90%の達成度と

答 町長 満足度的には100%

を

ごみゼロイベントを目指した「町民祭」 その評価は？



町 今後もリユース(再使用)食器を活用

増渕さつき 議員

問 今年度の町政への満足度調査によると、「ごみの減量化とリサイクルに積極的である」の項目が、5年連続のトップとなり、重要度でも4位になりました。また、今年度の町民祭では、ごみゼロイベントを目指して、リユース食器を利用した飲食の提供やマイ食器、マイバッグ持参の呼びかけもありました。今回の町民祭について、ごみの減量化から見た場合の評価と課題、そして今後の取り組みについて伺います。

答 町長 ごみの処分量は、重量面では変化はありませんでしたが、リユース食器の活用は、地球温暖化ガス削減、循環型社会の構築に向けた取り組み、意識の高揚、啓発に効果があったと評価します。しかし、利用者への説明不足、案内不足があったため、今後は反省点や改善点の意見をいただきながら、継続してリユース食器の活用に取り組んでいきます。

今後も継続してリユースを進めます

問 今回の町民祭では、廃食油の回収も行われていま

すが、今後の回収について伺います。

答 環境対策課長 PR不足でしたが、それでも約60リットルの廃食油が回収になりました。今後ともイベント時には「廃食油回収コーナー」を設けて、PRを続けていきます。

問 芳賀中部環境衛生事務組合主催のごみ減量化委員会提示された資料では、可燃ごみの割合がまだまだ多いとのことでした。さらなるごみの減量

化とリサイクルについて、町はどのように取り組むのかを伺います。

答 町長 町では、平成13年度から循環型社会「環の町芳賀」をめざして、独自の事業を展開し、廃プラ回収や生ゴミ回収により、本来焼却されていた約200トンが資源化されています。また、資源物回収団体支援事業など独自回収で約470トンのごみ減量化がなされています。当町のごみの特徴として、事業所の数の多いことから、事業系

の可燃ごみが多いことがあげられます。事業者に対しても定期的な立ち入り調査を通して、分別減量化とリサイクル、排出抑制などの協力要請により、5年前と比較すると、約300トン、率にして30%が削減されました。今後も引き続きごみの減量化対策の強化を推進し、生ゴミ回収についても、容易で負担の少ない排出方法を検討し、取り組みやすい環境整備を図ってまいります。また、あらゆる機会を通じてごみの減量化に対する情報を発信し、町民の協働の循環型社会の形成に向けて「環の町芳賀」を発展的に推進し、環境にやさしい街づくりを目指します。



町民祭で大活躍の芳賀中学校ボランティア
ごみ分別コーナー「キレイキレイ隊」

答 町長 担当課に早く取り組むよう指示します。

問 現在、資源回収団体が64団体あり、生ごみ回収堆肥化事業に1,100世帯が協力し、EM菌による生ごみ堆肥化事業に281名が登録しています。そういった人材を活用し、町民の協働という視点で「環の町芳賀」推進のネットワークが作れないか伺います。



小林 俊夫 議員

振興計画 後期計画施策について

町 P(計画)D(実施)A(改善)を実行

問 今年4月、全員協議会で振興計画の基本方針、推進体制、推進スケジュールなどの説明がありました。その中の7つの施策のうち、教育分野について伺います。

心の教育に力を

答 町長 学力の向上はもとより、心の教育、人としての大切な教育は、強い子ども、くじけない子どもを目指しています。知徳体のバランスをよく教育していくことが重要です。心の教育は、知徳に当たり、学校だけでなく、国、県、町をあげて、心の教育に力を入れているところです。

範囲、町ができる範囲と言うことも含め、今後行っていく必要があります。また、どのように支えていくかと言う部分では、地域の力が重要になってくるのではと考えます。

問 都市基盤分野、公共下水道の整備、道路整備10年計画の進捗状況は。

答 都市計画課長 公共下水道事業につきましては、パイプス用地買収の未了部分を除き、平成21年度までに野元川橋梁周辺までの管渠工事を実施しました。今後は県道石末・真岡線までの敷設を進めます。下原地区については平成27年度までに整備予定です。

問 保健医療、福祉分野での健康診断の受信率は。

答 健康福祉課長 一昨年度が36.5%、昨年度が40%です。

問 高齢者に対する施策は。

答 健康福祉課長 高齢化率も含め、健全に運営していくためには、それなりの負担が必要になってきます。高齢者が自分達でできる

問 自然環境分野で県内1位を目指す回収ごみ減量化とポイ捨てごみは。

答 環境対策課長 第1回グリーン芳賀については、各自

治会から回収量を報告いただいています。あとの3回につきましては、報告いただいていないため、総量は把握していません。

問 産業経済分野での農地・水・環境保全向上対策事業は。

答 町長 今後とも推進していきたい。税の1%位をあてれば可能ではないかと考えます。これから財政当局と調整をとりながら実施できればと思っています。



町内各地で行われる農地・水・環境保全向上対策事業

問 芳賀工業団地への優良企業の誘致は。

答 町長 企業の進出は企業が判断します。北関東自動車道による物流の利便化などにより国、県、全体として芳賀工業団地を考えないと難しい。町ができるものは、芳賀工業団地連絡協議会とともに十分努力しているつもりです。

問 「道の駅はが」についての考えは。

答 町長 道の駅に駅長を設置し、テナントによる組織運営の合理化を図るために、先進地の事例などを参考にしたい。また、ロマンの湯との一体化を進めたいと考えています。

問 地域コミュニティ分野の光の道整備事業推進100%の加入率を目指すことについて伺います。

答 町長 これは、加入される方にメリットがあることが必要です。提供する情報、芳賀チャンネルを有効に使って、見ないと損をすると思っていた、だくことで、加入と利用を促進していきたいと考えます。

問 行財政分野での税の収納率について伺います。

答 税務課長 督促については、毎日行っているのは当然ですが、税務課の職員全員で年3回、そのほか全庁体制ということ各課の管理職全員で年2回の特別徴収を行っています。

コミュニティ活動支援・制度拡充を

町 事業内容を勘案し、増額を含め検討を



小林 隆志 議員

問

町は、ボランティアなどが地域活性化を図る公益活動に対して、その活動を支援しています。その活動を支援し、奨励金の額も含め、制度の拡充に向けて検討すべきでは。

事業内容を調査し、23年度予算で検討を

答

町長 奨励金については、事業内容、対象、意図、効果などを調査の上、必要があれば増額を含めて検討していきます。高齢者福祉の充実など公共のためになるものについては、中身をよく検討し、23年度に向けて予算も増額できればと考えます。

**介護老人福祉施設
用地の再検討を**

問

23年度整備予定の地域密着型介護老人福祉施設は、応募があった業者提案の唐桶宗山公園内の「少年自然の家」跡地を有力候補地として計画が進められている。しかし、①同公園には「みささかん」があり、その経営への影響が懸念され、町南部の住民の利便性を考えると、施設が偏りすぎる。②保育園と高齢者の交流の容易性など

答

子ども育成課長 民営化後の水橋保育園の敷地計画では、水橋分館東側のプール跡地と一段低くなっている駐車場を利用した整備を検討中で、駐車場の部分についても、半分程度は保育園の敷地に利用予定です。ここに2つの施設を造るのは、場所的な制約が生じると感じます。

**水橋保育園の敷地計画
を考えると難しい**



水橋保育園は民営化により敷地整備を検討中



**空き地条例の運用と
今後の取り組みは**

問

21年度4月空き地等の環境保全に関する条例が施行され1年半が経過した。条例の運用状況と、今後の取り組みについて伺います。

答

町長 21年度の運用実績は70件の改善苦情のうち、67件について適正な管理をお願いする文書を送付し、早急な対

**所在不明者の土地は
町の暫定管理も検討**

応が必要な3件については、指導及び助言の文書を送付しました。その後、改善が見られない案件については改善勧告を送付しています。

苦情のあった70件のうち、改善されたものは33件、連絡がなかったものが27件、うち6件について勧告を行っています。また、所有者の所在不明が10件ありました。

問

現在、所有者所在不明地の雑草の管理は、地域住民のボランティアで行われているが、より踏み込んだ町の対応が必要だと思う。例えば、所在不明状態が解消されるまで、緑地等として、暫定的な町の管理を可能にするための、新たな制度を導入すべきでは。

答

町長 町の環境保全のため、町に有効に働くと思うので、検討していきます。



議会定例会

……映像配信を試行



町では、平成23年4月サービス開始を目標に「光の道整備事業」を進めています。 「芳賀チャンネル」(地域情報番組)での視聴提供の中で、ニュース番組や自主放送番組、データ放送を行います。

町議会では、「芳賀チャンネル」の中で、定例会映像の公開を行うため、設備機器の整備を進めてきましたが、12月定例会の映像中継を役場庁舎内のテレビで試験的に行いました。

10時の開会から役場庁舎内のテレビに映像が写され、職員や役場を訪れた皆さんが足を止め、一般質問などの議員と執行部の応答に目を向けていました。

議会定例会の映像配信は、役場庁舎内設置のテレビでは生中継を、芳賀チャンネルでの配信では番組を編成し、録画を放送します。

3月の定例会でも役場内のテレビで生中継を行いますので、議会傍聴に併せてぜひご覧下さい。

※「芳賀チャンネル」の受信には加入契約と、接続工事が必要です。

議会定例会は23年度から **テレビ** 放映開始です

議会運営委員会 広報常任委員会

山形県高島町を 行政視察

町議会運営委員会(小林信二委員長)と町議会広報常任委員会(小林俊夫委員長)では、「光の道整備事業」による議会定例会映像配信の開始を前に、11月15日、先進地である山形県高島町を視察し、定例会の録画と放送や議会の運営についての調査を行いました。

当日は、高島町議会事務局からの説明と、質疑応答を行い、議場に設置された設備機器を見学しました。高島町は、山形県の南東に位置し、人口約2万5千人の町で、平成22年4月から、議会定例会をケーブルテレビとインターネットで公開を行い、開かれた議会を目指しています。



高島町で説明を聴取



高島町庁舎前で



高齢化社会



小林 真澄さん
(下高根沢)

少子高齢化ということばが使われ始めてずいぶんたつたように思います。少子化対策で、民主党の目玉政策として子ども手当が創設され、次年度に向けては3歳以下の子どもについて7千円の上積みが審議されています。また、芳賀町では義務教育児童の医療費無料化や、待機児童対策でも民間委託をする中で、施設の整備を図るとのことで充実していますが、高齢化対策はまだまだ進んでいないように感じます。保育待機児童の数より

も施設待機老人の方が多くはないでしょうか。学校の整備統合により遊休化した建物や敷地が、芳賀町内にはたくさんあるように思いますが、維持管理と有効利用を考えた時、敷地の有効利用として地域密着型の介護老人福祉施設の整備を図って、入所待機者を減少させていくことが大事なのではないでしょうか。遊休資産の管理費の圧縮と有効利用という観点も含めて老人施設の充実を望みます。

女性だけでなく

第6回女性模擬議会に参加するようになりました。今回で2回目です。前は時間の都合上、質問をする機会に恵まれませんでしたが、今回は「道の駅」について質問をします。

初めて模擬議員になったのは、平成13年の第1回でした。町で初めての試みで、何回も会議を重ねましたが、本番ではかなり時間がかかってしまったように記憶しています。その女性模擬議会も回を重ねること第6回。今回は7名しか応募が

ありませんでした。いまや、芳賀町でも2名の女性議員が誕生して活躍しています。男女共同参画も進み、女性模擬議会の必要性がなくなったように思います。

そこで、町民の年齢、性別に関係なく模擬議会を開催してはどうでしょうか。

模擬議会に参加して、議会の仕組みなど大変勉強になりました。議会のことを知ることで議会がもっと身近に感じられるのではないのでしょうか。



綱川みね子さん
(東高橋)

地域の行事に参加して



神保 照子さん
(与能)

今まで疎遠にしていた自治会主催の行事「歩け歩け運動」に参加し、子ども達からお年寄りまで幅広い年齢層の人たちと、小春日和の1日、心地よい汗を流したところです。近くを歩いていた小学生に、「学校は楽しい？」と尋ねたら、「うん、給食がおいしいよ。友だちもいっぱいいるよ。」と、元気な返事が返ってきてうれしくなりました。

最近、子ども達の外で遊ぶ姿が見られなくなったといわれていますが、地域で

子ども達が元気に活動できる場や、機会を開催するという事はとても喜ばしいことと感じます。旧今市事件をはじめ、子どもに関わる事件事故が多発しています。いじめや不登校問題も深刻です。このような状況の中、保護者や学校、地域、町当局の方々などがそれぞれの役割を發揮し、将来を担う子ども達が明るく元気で、安心して活動できる環境作りに力を注いでいただければと願っています。

議会日誌

平成22年

10月

- 18日 ・宇都宮・茂木線要望活動（宇都宮）
・総務常任委員会行政視察（～19日）
（群馬県）
- 20日 ・議員全員協議会
・広報常任委員会
- 21日 ・産業建設常任委員会行政視察
（～22日）（山形県）

11月

- 1日 ・鬼怒川新橋整備促進規制同盟会要望活動（宇都宮）
- 4日 ・郡内議員自治研修（益子）
・郡内ごみ処理施設整備研修会（益子）
- 5日 ・県議長会定期総会・研修会（宇都宮）
- 11日 ・郡内元議長との懇談会（～12日）
- 18日 ・第9回芳賀町議会臨時会
・議員全員協議会
・産業建設常任委員会
- 19日 ・芳賀町農業振興推進対策協議会
- 22日 ・芳賀北部広域行政推進協議会要望活動（真岡・宇都宮）
- 24日 ・議会運営委員会
- 26日 ・芳賀中部環境衛生事務組合臨時会（益子）
・芳賀地区広域行政事務組合議会臨時会（真岡）

12月

- 2日 ・第10回芳賀町議会定例会（～7日）
- 7日 ・広報常任委員会
- 12日 ・西高橋地区防災訓練
- 16日 ・芳賀中部環境衛生事務組合意見交換会

町議員会

農業委員との懇談会を開催

芳賀町議員会では、町政全般について調査研究活動を自ら行っていますが、12月15日に町農業委員との懇談会を開催しました。「芳賀町の現状と今後の方向」と題して、農業経営者の高齢化、後継者、耕作放棄地などについての問題点などが話し合われました。

主な内容

- ・23年産米県別生産目標、麦大豆交付金について（説明）
- ・経営者の高齢化、後継者、耕作放棄地について
- ・新規農産物直売所開設について
- ・直売所運営の課題について
- ・農産物ブランド化について
- ・不在地主問題について
- ・その他

（役場大会議室）



〈次回の定例会開催予定日は3月2日予定です。〉

みんなで議会を傍聴しましょう

編集室

環境省の発表では、わが国の温室効果ガス排出量が、前年度を大きく下回ったそうだが、これまでは景気後退によるエネルギー需要の減少だったが、猛暑で電力消費量は増大し、排出量が心配される。漢字一文字も「暑」である。思い出しただけでも、汗が噴き出す気がする。長く暑い日が延々と続き、熱中症で亡くなる方も多く、農作物にも被害が著しかった。中でも宮崎県の口蹄疫は、29万頭の犠牲者（？）を出し、私達の心に深い傷みが残った。二度と繰り返したくないと誰もが思ったことであろう。

就職難、領土問題、消費税増税、TPPと難題続きの中で、時代の流れに逆らわず生きていく難しさを感じます。

町民と一致団結して、老若男女が自分の声を発する機会、場を持つことが大切ではないかと思えます。卯年の今年、鬼のごとく跳躍力で夢に向かってジャンプ！

（議会広報常任委員会

副委員長 大根田和子記）